【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第４区分
【発行日】令和5年11月13日(2023.11.13)

【公開番号】特開2022-84117(P2022-84117A)
【公開日】令和4年6月7日(2022.6.7)
【年通号数】公開公報(特許)2022-101
【出願番号】特願2020-195764(P2020-195764)
【国際特許分類】
Ｈ０２Ｋ 24/00(2006.01)
Ｈ０２Ｋ 3/52(2006.01)
Ｈ０２Ｋ 3/46(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０２Ｋ 24/00
Ｈ０２Ｋ 3/52 Ｅ
Ｈ０２Ｋ 3/46 Ｃ

【手続補正書】
【提出日】令和5年11月2日(2023.11.2)
【手続補正１】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００９】
本発明によるレゾルバステータ巻線構造は、輪状ステータの多数の突出磁極に対し、輪状絶縁キャップ及び前記輪状絶縁キャップに一体成形された渡り壁を介して、ステータ巻線を前記各突出磁極の外周に巻回するようにしたレゾルバステータ巻線構造において、前記渡り壁の上部には、前記渡り壁と一体に成形されたひさし部が設けられ、前記ひさし部は、前記ステータ巻線の渡り線の前記渡り壁からの離脱を防止するようにした構成であり、また、前記ひさし部の両側には、耳部が形成され、前記各耳部は、前記輪状ステータの径方向及び軸方向に沿って見た時、前記各突出磁極の前記ステータ巻線の少なくとも一部に対して重合している構成であり、また、本発明によるレゾルバステータ巻線方法は、輪状ステータの多数の突出磁極に対し、輪状絶縁キャップ及び前記輪状絶縁キャップに一体成形された渡り壁を介して、ステータ巻線を前記各突出磁極の外周に巻回するようにしたレゾルバステータ巻線構造を用い、前記渡り壁の上部には、前記渡り壁と一体に成形されたひさし部が設けられ、前記ひさし部は、前記ステータ巻線の渡り線の前記渡り壁からの離脱を防止する方法であり、また、前記ひさし部の両側には、耳部が形成され、前記各耳部は、前記輪状ステータの径方向及び軸方向に沿って見た時、前記各突出磁極の前記ステータ巻線の少なくとも一部に対して重合している方法である。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１０
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１０】
本発明によるレゾルバステータ巻線構造及び方法は、以上のように構成されているため、次のような効果を得ることができる。
すなわち、輪状ステータの多数の突出磁極に対し、輪状絶縁キャップ及び前記輪状絶縁キャップに一体成形された渡り壁を介して、ステータ巻線を前記各突出磁極の外周に巻回

するようにしたレゾルバステータ巻線構造及び方法において、前記渡り壁の上部には、前記渡り壁と一体に成形されたひさし部が設けられ、前記ひさし部は、前記ステータ巻線の渡り線の前記渡り壁からの離脱を防止するようにした構造及び方法であるため、多数本の渡り線を渡り壁に案内しても、渡り線が従来のように離脱することはなく、ひさし部によって全て渡り部に保持され、高い歩留りを保持できる。
前記ひさし部の両側には、耳部が形成され、前記各耳部は、前記輪状ステータの径方向及び軸方向に沿って見た時、前記各突出磁極の前記ステータ巻線の少なくとも一部に対して重合している巻線構造及び方法であるため、巻線後のステータ巻線は、ひさし部及び耳部によって一部が覆われているため、外部からの人手や工具等がステータ巻線に接触することが殆んど防止され、レゾルバの組立後の歩留りを向上させることができる。

【手続補正３】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
輪状ステータ(1)の多数の突出磁極(2)に対し、輪状絶縁キャップ(3)及び前記輪状絶縁キャップ(3)に一体成形された渡り壁(5)を介して、ステータ巻線(6)を前記各突出磁極(2)の外周に巻回するようにしたレゾルバステータ巻線構造において、
前記渡り壁(5)の上部には、前記渡り壁(5)と一体に成形されたひさし部(10)が設けられ、前記ひさし部(10)は、前記ステータ巻線(6)の渡り線(6a)の前記渡り壁(5)からの離脱を防止するように構成したことを特徴とするレゾルバステータ巻線構造。
【請求項２】
前記ひさし部(10)の両側には、耳部(10b)が形成され、前記各耳部(10b)は、前記輪状ステータ(1)の径方向(R)及び軸方向(P)に沿って見た時、前記各突出磁極(2)の前記ステータ巻線(6)の少なくとも一部に対して重合している構成としたことを特徴とする請求項１記載のレゾルバステータ巻線構造。
【請求項３】
輪状ステータ(1)の多数の突出磁極(2)に対し、輪状絶縁キャップ(3)及び前記輪状絶縁キャップ(3)に一体成形された渡り壁(5)を介して、ステータ巻線(6)を前記各突出磁極(2)の外周に巻回するようにしたレゾルバステータ巻線構造を用い、
前記渡り壁(5)の上部には、前記渡り壁(5)と一体に成形されたひさし部(10)が設けられ、前記ひさし部(10)は、前記ステータ巻線(6)の渡り線(6a)の前記渡り壁(5)からの離脱を防止することを特徴とするレゾルバステータ巻線方法。
【請求項４】
前記ひさし部(10)の両側には、耳部(10b)が形成され、前記各耳部(10b)は、前記輪状ステータ(1)の径方向(R)及び軸方向(P)に沿って見た時、前記各突出磁極(2)の前記ステータ巻線(6)の少なくとも一部に対して重合していることを特徴とする請求項３記載のレゾルバステータ巻線方法。